

このコンサートには、
心身に障害を持った方々をご招待しております。
どうぞご理解、ご協力くださいますよう
お願い申し上げます。
なお、会場で寄せられた募金は、その全額に団員の志を加え、毎年、川崎市社会福祉協議会に寄託してまいりました。昨年の寄託額は196,172円。これまでのトータルは、2,165,015円となっております。前年の皆様のご芳志について、この欄をご報告の場とさせていただきます。前年の皆様のご芳志について、この欄をご報告の場とさせていただきます。毎年、ほんとうにありがとうございます。



商品提供・花王株式会社

《出演者》

ソプラノ	宮下 とも子	瀧澤 映
市岡 美奈	渡部 信子	成瀬 宗弘
尾花 理恵子	アルト	西田 誠
小見川由美子	川本 光子	野村 勇雄
勝裕 智賀子	柴田 牧子	
草野 暁子	島田 春江	バス
佐々木レイ子	中場 裕子	今村 勝行
須山 久美子	根村 道子	小澤 精三
関戸 優	松本 伸子	河野 恵哉
土屋 ひろみ	松本 寛子	高野 晴行
長沼 萩江	森川 順子	小森 善次郎
花島 佳子	吉田 ヒサ子	清水 義明
土方 和江	テノール	高橋 生郎
平原 みち子	小島 修	細野 文夫
	小野 博茂	宮村 寛

VOICE SPACE "NOVO"
登戸混声合唱団

団員募集中

練習日時
毎週火曜日 19:00~21:00

練習会場
多摩市民館 or 麻生市民館

連絡先 03-3430-5168 根村

後援

川崎市／川崎市教育委員会／川崎市社会福祉協議会
読売新聞社／神奈川新聞社／朝日新聞・毎日新聞・東京新聞《各川崎支局》
東京都合唱連盟／JCDA日本合唱指揮者協会
「音楽のまち・かわさき」推進協議会

Voice Space "NOVO"
登戸混声合唱団
the 40th concert
チャリティ No.20

ひとひらの
あいさつ
コンサート

20th
Charity Concert

2007年12月16日(日) pm.1:30 川崎市多摩市民館大ホール



お祝いのことば

川崎市長 阿部孝夫

登戸混声合唱団「ひとひらのあいコンサート」が20回の開催を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

1988年から毎年1回、地域の方々を招待して開催してこられたこのチャリティコンサートは、年末の風物詩として楽しみにするファンの方が大勢いらっしゃるとうかがっております。20年の長きにわたる活動に、深く敬意を表します。

本日のコンサートでは、20年の歳月を積み重ねて円熟したハーモニーが、ご来場の皆様を感動に包み込み、忘れられないひとときをもたらすでしょう。

川崎市が、「ミュージアム川崎シンフォニーホール」を拠点に進めてきた「音楽のまち・かわさき」も次第に定着し、様々なイベントにおいて音楽が演奏されるなど、その成果が着実に現れてきております。

今後とも、皆様方のお力添えをいただきながら、音楽が身近にある魅力いっぱいの川崎のまちづくりを進めていきたいと思っております。

最後に、このたびのコンサートの御成功、登戸混声合唱団のますますのご発展と御来場の皆様のご健勝を祈念しまして、お祝いのことばといたします。

ありがとうございました

1988年7月、のぼこん第1回の演奏会を終えて間もなく、無謀とも思えるこのコンサートの企画を話したとき、指揮者の片野先生は「出来るよ！」と背中を押してくださり「ひとひらのあいコンサート」と名づけてくださいました。

チャリティコンサートは、まだ珍しがられた頃で、暗中模索の中、その年の12月に1回目のチャリティコンサートを開催したのでした。

それから20年…、経ってみるとあっという間の20年ですが、応援して下さった方々—若々しかった青年も今や社会で錚々たるポジションに就かれ、一方、涙で見送った物故された方々を思うと、やはり長い20年なのかもしれません。

ささやかでも地域社会のお役に立ちたいと始めたコンサートですが、実は、私たちのほうが力をいただいて、成長の糧としていることに気づくのに、あまり月日を要することはありませんでした。

ステージに立つだけでなく、音楽行事のスタッフや、春秋の防災週間など、地域のイベントに参加させていただいたり、7回・10か国に及ぶ海外演奏など、市井の合唱団としては独自の歩みが続けておりますのも、このコンサートによって、広く多くの方々とふれあいを通して、社会や世界への視野を広げる力になったと思うからです。

今日まで、のぼこんの活動を見守り、応援して下さった地域の方々、プログラム表紙に掲載しているたくさんのご後援、毎回大量の商品を提供して下さる花王様、一緒に歌ってくれた歌仲間、そしていつも熱い心で私たちを指導して下さる片野先生、皆様へのぼこん団員一同、心から厚く御礼申し上げます。おかげさまで20回目を迎えることができました。本当に、ありがとうございました。

2007年12月16日

登戸混声合唱団 団長 根村道子
団員一同

「ひとひらのあいコンサート」に寄せて

多摩区社会福祉協議会 事務局長 佐俣千恵子

第20回を迎える「ひとひらのあいコンサート」おめでとうございます。

旧い多摩市民館の音響もままならないホールで、素敵な歌声に魅せられたことが昨日のようです。大きな声や身体を動かし椅子のギシギシした音なども時々ありましたが、音楽に共感する感情表現のすべてを受け入れ障害の有無に関わらず音楽を楽しむことに感動したことを今も思い出します。団員の方々と聴衆が片野先生の指導の下に合唱し、己も団員になったかのような錯覚にもとられたものです。あのときの震えるような感情が忘れられず、このコンサートが末永く続きますようにと祈ってきました。団長さんを筆頭に団員の方々の弛まぬ努力で毎年開催されましたことに、また、共鳴して下さる多くの方々の善意が川崎市社会福祉協議会を通して地域の福祉活動を支えてくださっていることにも敬意と感謝を覚えます。これからはますます世界に羽ばたき、すばらしい歌声を響かせてくださることをファンとして熱望いたします。

登戸混声合唱団に拍手!!!



のぼこんチャリティコンサート20回を記念して

指揮者 片野秀俊



昭和55年、多摩区に「登戸混声合唱団」は産声をあげた。当時の登戸・向ヶ丘遊園周辺には、小さな女声合唱団は幾つかあったものの、混声合唱団は皆無で、創立を望む熱い声に、私もこの地の合唱の広がりをお願い、旗揚げしたのでした。

できたばかりのイノウエホールに12名の人が集まりスタートした当団は、しかし間もなく次々に人数が減り、必死の努力も虚しく、2年後には3名を残すのみとなる。いつの場合もそうなのだが、それなりの展望と目標を持って活動しようとする時、その場限りの消費的快樂だけを求めて集まった人達は、霧散するものだ。

それでもあきらめず細々と練習を続けて5年目、現団長の根村さんを始め数人のメンバーが少しずつ増えはじめて十数名となり、合唱団の体をなすようになる。

そして3年後、根村団長と私は“地域のために、地域に根ざした合唱団として”チャリティコンサートを計画し「ひとひらのあいコンサート」と命名した。

20名に満たない人数での第一回は、演奏技術も拙いもので、私が指導している他の団の応援もたくさん頂きつつであったが、ふと振り返れば20年、よくぞ続いて来たものだと思う。何よりも、微に入り細を穿って心配りを尽くす団長の根村さん、周りを固める役員の皆さん、毎回足を運んでくださる聴衆の皆様、すべての人々の“ひとひらの愛の心”によって、支えられ発展して来たのだと思う。

今年も40名のメンバーがステージに立ち、心をこめて音楽をお贈りします。

合唱は人が集団生活を始めた縄文時代から、科学文明最盛期の現代に至るまで、そしてこれからも、人と人との心を繋ぐ何よりのすべなのです。人々が声を和して歌う時、そこにハーモニーが生まれ、憎しみも戦いも及ばないのです。

私達はこれからも、一人でも多くの皆様に合唱の、そして音楽の素晴らしさをお伝えすべく、力を尽くして頑張っていく所存です。

2007.12.10

登戸混声合唱団 チャリティ No. 20

プログラム

指揮とお話
ゲスト リコーダー
ピアノ

片野秀俊
渡辺清美
井熊康子

1st STAGE 中世の合唱曲

AVE MARIA グレゴリオ聖歌
AVE VERUM CORPUS グレゴリオ聖歌
AVE MARIA ジョスカン・デ・プレ

2nd STAGE 懐かしき歌

混声合唱のための唱歌メドレー
「ふるさとの四季」 源田俊一郎編曲

3rd STAGE リコーダー演奏 渡辺清美
ピアノ伴奏 遠藤由美

恋のうぐいす クーブラン
イギリスのナイチンゲール エイク
七つの子 本居長世 - 林 光

——休憩——

4th STAGE みんなで歌いましょう

手のひらを太陽に
やなせたかし 作詞/いずみ たく 作曲

川崎市民の歌

好きです かわさき 愛の街
肥後義子 詩/石本美由紀 補作/山本直純 作曲

5th STAGE ポピュラーソング

世界に一つだけの花 槇原敬之 作詞・作曲
千の風になって 日本語詞・作曲 新井 満
翼を下さい 山上路夫 作詞/村井邦彦 作曲/前田憲男・編曲

6th STAGE クリスマスソング

Hallelujah G.F.ヘンデル 作曲
神のみ子は J.F.ウエード作詞・作曲
赤鼻のトナカイ 宇田はじめ作詞/増田順平編曲
Amazing Grace J.ニュートン 作詞/Rバーンズ作曲
We Wish You A Merry Christmas イギリス古謡
聖夜 F.グルーバー

Profile

片野秀俊 (かたの ひでとし)

プロ合唱団・日本合唱協会(日唱)において、長年にわたり音楽監督をつとめた故・山田一雄氏(現在永久名誉監督)の薫陶を受け1985年 第68回定期演奏会を指揮して指揮者に就任。現在日本合唱協会主宰 ならびに指揮者として定期演奏会、特別演奏会、同団メンバーを伴って全国各地で演奏活動を行っている。

NHKラジオ「みんなのコーラス」レギュラー解説者、NHK TV「名曲アルバム」「さわやかみんなのハーモニー」他多数出演。

「教育音楽」などの音楽雑誌への執筆をする一方 アマチュア合唱団の育成にも力をそそいでいる。また 日本ニューフィルハーモニー管弦楽団、東京ソリストン楽友協会管弦楽団、日本邦楽アンサンブルなどオーケストラの指揮も数多い。

NHK全国音楽コンクール、全日本合唱コンクール等の審査員、講師。

指揮法を山田一雄、ヘルムート・リリング、山本直純、荒谷俊治、飯守泰次郎 他 演奏法を平井康三郎、清水脩、声楽を下八川圭祐、芳野靖夫他の各氏に師事。

プロ合唱団「日本合唱協会」主宰 指揮者。日本演奏連盟会員、全日本合唱連盟常務理事。東京都合唱連盟理事長。多摩区合唱連盟理事長。福島県いわき市出身。登戸混声合唱団創立以来の常任指揮者。

渡辺清美 (わたなべ きよみ)

神奈川県立希望ヶ丘高校卒業。桐朋学園大学音楽学部古楽器科卒業。同大学研究科修了。リコーダーを花岡和生氏に、フラウト・トラヴェルソを有田正広氏に師事。室内楽を有田千代子、つのだたかし、本間正史、山岡重治の各氏に師事。

1996年夏、ベルギーの夏期講習会に参加。D.ブリュッヘン氏に師事。現在はバロックアンサンブル「アルモニー・アンティーク」、リコーダー・アンサンブルStellaのメンバーとして室内楽を中心に演奏活動をするほか、オリジナル曲によるCD制作、合唱とのコラボレーション、合奏団「リコーダーコンサート青葉」の音楽監督・指揮などジャンルにとらわれない活動を展開している。又音楽塾LOVE RECORDERを主宰し、後進の指導にも力を注いでいる。11月16日に近江楽堂で初のソロリサイタルを開催。

井熊康子 (いくま やすこ)

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。岡林千枝子、平尾はるなの両氏に師事。伴奏に関してはダルトン・ボードウィン、ワルター・モア、ジョルジュ・ブリュデルマッシュェールの各氏に教えを受け、多くの名演奏家のもとで研鑽を積む。京都フランス音楽アカデミー、イーストマン音楽学校夏季セミナーなどに参加。現在は主に声楽、合唱の伴奏者として演奏活動、レコーディングなどを行なっている。日本演奏連盟。フランス歌曲研究会会員。登戸混声合唱団のアメリカ、フランス、イタリア、ドイツ、ギリシア、クロアチア等の海外演奏で伴奏をつとめた。

遠藤由美 (えんどう ゆみ) エコール・ノルマル音楽院(フランス)卒業。

登戸混声合唱団 チャリティ No.20
ひとひらのあいコンサートへ

ひとこと

いつもこのコンサートを楽しんでくださる皆様や、歌仲間から、20回目開催へのメッセージをいただきました。

ずっと聴かせていただいて

下沢 喜代

片野先生、登戸混声合唱団の皆様、この度は20回記念、おめでとうございます。

私は、古い多摩市民館での演奏会…第一回か第二回か忘れましたが、今日までずっと客席で聴かせていただいています。年ごとに演奏もすばらしくなり、楽しみにしています。かつて、私たちが有志で麻生楽友協会を立ち上げ、演奏会の度に根村様はじめ皆様にチケット購入でご協力いただき、あの頃は本当にお世話になりました。

昭和音大の前身、声専音楽学校の私の後輩でいらっしゃる片野先生の今後のご活躍を心から祈り、合唱団の発展を応援しております。
(麻生区ご在住)

20回の開催おめでとうございます

東京ガスコーラス部 橋本 俊幸

まだ、毎年のクリスマスソングを歌うことすら、人数的に大変だった時代、何度か仲間入りをさせていただきました。その頃から、「のぼこん」の、あたたかく・全員参加で・前向きな姿勢は、客席で拝見する今も変わりません。日頃コンサート会場に縁遠い、障害を持った方々を招待し、毎年、合唱以外の音楽の楽しさも紹介し、しかもクリスマス気分までも満喫できる贅沢なコンサート。これからはぜひ末永い定番長寿プログラムとしてお続け下さい。募金箱応援団として、楽しみにしております。

心豊かな合唱団 ますますご活躍を
福原トモヨ

20回目の「ひとひらのあいコンサート」のステージ、おめでとうございます。

先生のお人柄と皆様の心が一つになって、心地よいハーモニー。30年近くの歴史を刻まれて、海外演奏を楽しまれ、ボランティア活動に励まれ、心豊かな合唱団。近距離ならば御一緒に唱いたい思いです。

先日の、コインブラ大学OB合唱団とのジョイントコンサートも和気あいあいと会場が何ともいえない和やかな雰囲気です。楽しんで頂きました。

これからも益々御活躍なさいませう、念願しています。
(横浜市ご在住)

私の年中行事となったコンサート

ひとひらファンより

いま、チャリティコンサートは時々ありますが(中には名前だけのものもあるようです)、20回、20年連続というのは聞いたことがありません。10回連続、5回連続というのすら聞いたことがありません。すごいことだと思います。20年続けた根村団長、団員のご苦労がしのばれます。

清潔で、ていねいで、あたたかい演奏…指揮者と団の特長ですね。一年間の疲れをいやし、また活力を与えてくれるような気がします。そして、ささやかに募金に応じて帰るのが、私の年中行事のひとつです。

今年も楽しみにしています。ありがとう。

20回目のチャリティを祝して

世田谷区民合唱団 名取 洋

私は、今年の九月にヴェルディのレクイエムを歌いました。「シチリアの晩祷」を知らないでヴェルディのレクイエムを歌うことができるであろうかと思いつつ。一般のシチリア南イタリアのツアーに参加しました。

私と登戸混声合唱団の出会い、団長の根村さんに誘われて、1999年のイタリア演奏旅行に参加したのが最初でした。旅行に先立って片野先生から発声方法について丁寧に優しく教えて頂いたことは、私にとっては貴重な経験となりました。また団員の皆さんが旅行について事前にいろいろと準備されているのが印象的でした。特に、キリスト教の四旬節に、その時々合ったグレゴリア聖歌を唄う、といった事はまったく新しい体験でした。

また、アッシジでのミサは、今でも忘れることのできない思い出です。また、アドリア海に面したペザロに近い小都市での市民との交流演奏会も、大変楽しいものでした。

私が非力ながら世田谷区民合唱団の運営委員

長を引き受けたとき、登戸混声合唱団での経験が大変に役立ちました。

世田谷区民合唱団の演奏会には、世田谷の姉妹都市オーストラリアのバンバリーからわざわざ私たちの演奏を聴きにきていただきました。そして新たに友好を重ねることができました。これも、登戸混声合唱団から学んだ事の一つの成果かと、私は思っています。

登戸混声合唱団の活動が身近な地域社会への貢献、そして世界へのまなざしが、より広く深く、素晴らしい成果を上げられるものと期待しております。

毎朝おなじみのあのメロディが
東 友子

「のぼこん」のコンサートを初めて聴いたのが6年前。その時毎朝耳にしていたメロディが川崎市民の歌であることを知り、驚いたのを思い出します。それ以後、毎年この時期にステキな歌声に癒されることが恒例となりました。

今年のゲストは？ と、プログラムを開くのも楽しみ。勿論アンコール曲も楽しみです。最後のX'masソングを聴きながら全員のペンライトが点灯するかドキドキするのも楽しみの一つです。より多くの方々とふれあいを目指し、コンサートを長く続けてほしいと思います。
(麻生区ご在住)

地域とのふれあいが嬉しい

関口 昭平

チャリティコンサートは数回聴かせてもらい、男声が少なく低音がもっと響けばと感じていました。それよりも印象的だったのは5年前、地元のお祭りに登戸混声有志のみなさんが特別出演してくださって「箱根八里」など見事なコーラスを聴かせてくれたことです。それがきっかけとなり、私が脚本を書いたシューベルトの音楽劇に、なんと登戸混声で歌っていたドイツ人女子学生のメンディさんが、質屋の娘役で出演してくれたのです。たまたま登戸にホームステイされていた時で、音楽によるすばらしい出会いに感激しました。
(多摩区ご在住)

大勢の人のためにも歌い続けて！

田中 須賀子

20回目のチャリティおめでとうございます。団員の渡部信子さんは、息子の友達のお母様で、10年以上前に頂いた一枚のチケットが最初でし

た。ステージは輝いて見え、驚きでした。回を重ねる度、歌う皆さんが、聴く私たちが、今年も一年無事に送れたのだと思い、うれしく感じ、「チャリティコンサート」は大きな意味をもっていると感じます。息子も社会人となり、私も生き生きと生きようと思えます。

続けることは簡単ではありませんが、楽しみを持つことは大切ですね。歌う彼女、団員の皆さんを拝見すると感じます。どうかこれからも、楽しみながら歌い続けてください。ご自身と、大勢の人達の為に。
(宮前区ご在住)

ノボコンに救われた夫と私

高橋 洋子

第20回の記念コンサート、おめでとうございます。夫がノボコンの仲間に加わって7年。毎年慌しい年の瀬の服の清涼剤として楽しませていただいています。

それにしても、毎年のこの素晴らしいコンサートは、片野先生はじめ団員の皆様の熱意と努力のたまもの、それに驚くべきエネルギーを感じます。

演奏会ではいつも楽しい趣向があります。ある時『アヴィニョンの橋』で、夫は酔っ払い役でふらふらとステージを通り過ぎて行きました。「地のままだわよ」と、思わず苦笑したのですが、心の底からは笑えませんでした。当時、夫のお酒のことで悩んでいたからです。その後、本人の努力もさることながら、団員の方々の厳しい叱責や温かい励ましを受けて、今では一切お酒を断っています。大げさではなく、夫は、そして私もノボコンに救われたのでした。ただ感謝あるのみです。今回も、美しく力強い歌声を期待しています。
(多摩区ご在住)

チャリティコンサートが楽しみ

20代男性

僕は声の障害があります。声のチックで、いつでもどこでも声や言葉が出て、止めることができません。だから、僕が聴けるのはこのチャリティコンサートだけです。いつも楽しみにしています。

註・少年時代から、このコンサートにいられている「トゥレット障害」の若者のメッセージです。ご本人とご家族のご了解の上、掲載いたしました。